



500
420

135
240
25
320
360
520

旭1 江戸時代の浜田 地域概要

江戸時代の旭地域は、慶長5年(1600)の関ヶ原の合戦後、郡川村・栗原村・重富村・和田村・本郷村・今市村・丸原村・扇原村・八木村が津和野藩領となりました。また、木田村は元和3年(1617)から津和野藩領、市木村は元和5年(1619)から浜田藩領として幕末を迎えています。津和野藩領の村々は、それぞれ日貫組・久佐組に属しました。

旭地域には、津和野城下に至る津和野奥筋街道と浜田藩の参勤交代道であった浜田広島街道がとおり、今市が宿駅に指定されています。街道筋の村々では、津和野藩の特産である石州半紙の生産や砂鉄の採取と製鉄が行われ、流通網として街道が重要な役割を果たしました。

令和4年3月 浜田市教育委員会



金城1 江戸時代の浜田 地域概要

江戸時代の金城地域は、慶長5年(1600)の関ヶ原の合戦の後、南側が津和野藩領になりますが、元和5年(1619)に浜田藩が成立すると、七条村・小笹村・伊木村が天領から浜田藩領になりました。

金城地域には、安芸国へと通じる浜田広島街道、津和野へ通じる石見中通り往還といった街道があります。製鉄が盛んであった金城には、かんな流し跡やたたら跡等の遺跡が多くあり、金城歴史民俗資料館に関連資料が展示されています。また、紙漉きも盛んで、金城民俗資料館で紙漉き道具をはじめとする山村生産用具が展示されています。

令和4年3月 浜田市教育委員会

金城2 江戸時代の浜田 新開開拓

新開地区は、七条村の庄屋・岡本甚左衛門(1774~1842)が江戸時代に開拓した地域です。開拓前の新開地区は、七条原と呼ばれ雑木が生い茂り、水が不足する荒地でした。甚左衛門は、年貢米の不足に悩む七条村の為、文政8年(1819)に七条原の開拓を浜田藩に願い入れ、自らの資金を使い開拓事業を実施しました。

開拓にあたり、資金難や水不足に悩まされますが、安政3年(1856)に広草田大堤(甚左衛門堤)が完成すると17町余の田畑が広がる新開地区の景観が完成しました。岡本甚左衛門は、堤の完成を見ることなく亡くなりましたが、現在でも功績が語り継がれています。

令和4年3月 浜田市教育委員会

旭1 江戸時代の浜田 地域概要

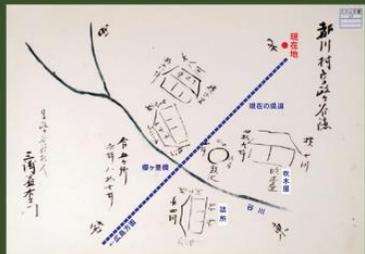
江戸時代の旭地域は、慶長5年(1600)の関ヶ原の合戦後、郡川村・栗原村・重富村・和田村・本郷村・今市村・丸原村・扇原村・八木村が津和野藩領となりました。また、木田村は元和3年(1617)から津和野藩領、市木村は元和5年(1619)から浜田藩領として幕末を迎えています。津和野藩領の村々は、それぞれ日貫組・久佐組に属しました。

旭地域には、津和野城下に至る津和野奥筋街道と浜田藩の参勤交代道であった浜田広島街道がとおり、今市が宿駅に指定されています。街道筋の村々では、津和野藩の特産である石州半紙の生産や砂鉄の採取と製鉄が行われ、流通網として街道が重要な役割を果たしました。

令和4年3月 浜田市教育委員会

- 【設置箇所】**
- 金城1 - 金城支所
 - 金城2 - 新開地区
 - 旭1 - 旭支所
 - 旭2 - 都川の棚田
 - 弥栄1 - 弥栄支所
 - 弥栄2 - 杵束まちづくりセンター
 - 三隅1 - 三隅支所
 - 三隅2 - 三保まちづくりセンター

旭2 江戸時代の浜田 棚田とたたら製鉄



那川村字政ヶ谷銅絵図（明治時代・金城歴史民俗資料館 展示）

現在地の向側には、石垣が曲線に連なる棚田が見えます。棚田は江戸時代に山を削って砂鉄を取ったかんな流しの跡地と土砂を利用して作られており、周辺に水が流れていることが必要です。現在地から約450m広島側の櫻ヶ里橋周辺は、砂鉄を使って鉄を作った、たたら跡（政ヶ谷跡）です。県道から川側を見下ろすと平地と石垣があります。道路右手には、カツラの古木、ほこら跡もあります。明治時代頃の政ヶ谷銅の絵図が残っています。「金城たたら関係文書」として浜田市指定文化財になっており、金城歴史民俗資料館で展示されています。絵図では谷川の対岸に詰所（事務所）、現在の道路脇あたりに吹木屋（高殿・高温の炉を使い鉄を作る建物）などが描かれています。鉦持人（経営者）は三浦氏です。

令和4年3月 浜田市教育委員会

弥栄1 江戸時代の浜田 地域概要



「正保石見国絵図」（国立国会図書館）
<https://dl.ndl.go.jp/titleThumb/info/ndjip/pid/1286204>を加工して作成

江戸時代の弥栄地域の安城地区は、長安村・小坂村が津和野藩領、栃木村が浜田藩領に属しました。長安村は、稲代・大坪・程原・小角・横谷・笹目原・門田・日高・西河内の9村に分村し、中央部は長安本郷となり、津和野藩の代官所が置られました。

安城地区の南北には大森代官所（大田市）と津和野を結ぶ石見中通り往還が通っています。この往還筋には、津和野藩領（宇津川・長安・久佐）が点在しており、津和野藩主の領内巡察がしばしば行われる重要な道でした。

令和4年3月 浜田市教育委員会

弥栄2 江戸時代の浜田 地域概要



「正保石見国絵図」（国立国会図書館）
<https://dl.ndl.go.jp/titleThumb/info/ndjip/pid/1286204>を加工して作成

江戸時代の弥栄地域の木都賀地区は、木東村・野坂村・西ノ郷村・熊ノ山村が浜田藩領、石見中通り往還の通る田野原村が津和野藩領に属しました。

木都賀地区は、古代の杵束郷に由来します。錦ヶ岡八幡宮は、木東村・西之郷村・野坂村・栃木村・田野原村（津和野藩領）・小坂村や黒沢村（三隅地域）・鍋石村（浜田地域）の総氏神として、藩領や地域を超えて尊崇を集めました。

令和4年3月 浜田市教育委員会

三隅1 江戸時代の浜田 地域概要



「正保石見国絵図」（国立国会図書館）
<https://dl.ndl.go.jp/titleThumb/info/ndjip/pid/1286204>を加工して作成

江戸時代の三隅地域は、関ヶ原の合戦後、幕府の直轄領でしたが、元和3年(1617)井野村が津和野藩領となり、残りの村は元和5年(1619)に浜田藩領となり三隅組に属しました。三隅組を管轄する代官所は古市場、湊浦、岡崎（子落）にあったとされ、子落には代官・佐々木文左衛門ゆかりの桜があります。東西に山陰道が通った三隅地域は、岡崎村（三隅）に宿駅として機能した町場があり多くの人々が行き交いました。海岸部にある湊浦は浜田藩の港として重要視され、山間部にある井野村では、砂鉄採取が行われました。また、和紙の生産も盛んでその技術と伝統が今に受け継がれています。慶応2年(1866)第二次幕長戦争では、長州軍が大森山に籠る浜田藩兵を西村・井野両方面から攻撃し占領するなど三隅地域も戦場になりました。

令和4年3月 浜田市教育委員会

三隅2 江戸時代の浜田 湊浦



「正保石見国絵図」（国立国会図書館）
<https://dl.ndl.go.jp/titleThumb/info/ndjip/pid/1286204>を加工して作成

江戸時代の湊浦は、三隅川河口に位置する湊の町で、浜田藩の年貢米や山間部にある津和野藩領の産物の津出しの港として発展しました。湊浦は、浜田藩領における物流の中心のひとつとして重要視され、浦番所や遠見番所が設置されました。

湊浦には、北前船をはじめとする多くの廻船が停泊しましたが、廻船だけでなく三隅川の水運を利用した川船や網船（漁船）などの様々な船が行き交いました。湊八幡宮には、延宝5年(1677)の銘が入った花崗岩の鳥居があり、当時の繁栄を垣間見ることができます。また、良忠上人（浄土宗第三祖）による創建と伝わる極楽寺には、木造阿彌陀如来立像（市指定文化財）が残されています。

令和4年3月 浜田市教育委員会